

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム生きがい2 Aユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6-12		
自己評価作成日	令和6年3月12日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170503312-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがい2は、法人母体である整形外科内科沢口医院の3階にある。外来リハビリに定期的に通うことができるため、リハビリの継続ができたり体調不良などの時にすぐ病院に相談できるため利用者さんも安心して生活できる環境である。介護記録をもとに担当職員が支援経過記録に利用者の変化を転記してプラン評価につなげており、日々の記録を活かしながら介護計画の作成をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 生きがい2」はJR白石駅から徒歩5分ほどの場所にある2ユニットの事業所である。建物1～2階は母体法人の病院で3階に事業所が併設しており、24時間の支援体制で安心できる環境になっている。屋内は事務所を挟んでAとBの2つのユニットが回廊式に配置されており、共用空間内の扉で区切られ居間と食堂部分は広々として明るい。感染症流行で外出が制限されてきた状況から令和5年の6月、7月、9月に個別の外出支援を立案し、利用者の意向を個別に聞きながら全員が3回は外出できるように対応している。暑い時間帯を避けて意向にしっかり向き合う利用者目線での支援が行われている。利用者は感染症の予防をしながら事業所近くにある喫茶店、コンビニエンスストア、JR駅構内、生協などに出かけて外出を楽しんでいる。運営推進会議は対面会議に戻り、家族の参加率も高く、参加できない家族にも意見収集を行い情報交換が分かる内容の議事録になっている。ケアマネジメントでは利用者担当職員の情報収集から丁寧な評価を行い介護計画を作成している。食事は献立に季節料理を盛り込み、おやつ作りはプリンアラモード会などと称し趣向を変えながら利用者もおやつ作りが楽しめるよう工夫している。各種の研修テーマに沿って学びながら、職員は温かい姿勢で利用者に対応している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の研修で説明、常に職員が意識できるように事業所内の要所に掲示している 各職員が理念を念頭に置いて統一したケアが行えるようにしている	事業所理念に地域住民との関わりをもつ内容を盛り込み実践につなげている。職員は要所に掲示してある理念を意識し、人との関わり、地域との関わりを大切にケアを行っている。散歩や買い物の際に利用者は住民と触れ合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のため施設内立ち入りを制限しており、以前行っていたフラダンスのボランティア、中学校の「でっち奉公」、定期的な音楽療法士による音楽の時間などは中止中 町内会で植えている花壇の手入れを行っている	感染症の影響から外部者との交流は難しいが、町内会の花壇を利用者と一緒に手入れをしている。個別の外出支援を行っており、喫茶店やラーメン店に行き、生協、コンビニエンスストアなどの買い物時に住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	沢口医院に配布パンフレットを置いており急な見学希望などできる限り対応している、その際支援の方法や介護保険施設の説明など行う		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や利用者の状況、職員の入退職などを毎回報告している 当グループホーム内で発生したコロナ感染についての経過をまとめ、対応と反省点をお知らせした	会議を定期的に行い、町内会、地域包括支援センター、家族1名～4名の参加を得てテーマに沿って事業所の報告と、地域の情報を得ている。詳細な議事録に資料を添えて全家族に送っており、次回の会議案内に避難訓練の記載を考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護課の方が利用者に面会に来たり、札幌市おむつサービスの利用について、介護保険更新についてなど電話で相談したりアドバイスをもらっている	運営推進会議で地域包括支援センター職員から情報を得ている。生活保護課担当者とは訪問時に本人の状態を説明したり、介護券の受け取りなど、その都度連携して行っている。おむつサービスの書類手続きを確認しながら代行している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為について、施設内研修を実施、職員が理解して身体拘束のないケアを実施できるようにしている	身体拘束適正委員会を3か月ごとに開催している。全職員は内容を把握しているが、身体拘束の有無を確認する内容で会議録として記録が少ないように見受けられる。年2回の研修では資料や動画を取り入れて拘束をしないケアを学び、職員は禁止となる具体的な行為を理解している。	委員会で確認した内容や対応について具体的に記載し、参加者以外の第三者にも分かるような会議録に期待したい。また委員会のファイルに身体拘束廃止に関する研修記録なども綴り一体的に分かる工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は具体的に高齢者虐待がどのようなものか理解して防止に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方はいないが、制度がどのようなものかスタッフが理解できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族、利用者に十分な説明を行ったうえで契約締結を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者家族ごとのファイルを作成し、電話や面会時のお話の内容など記録し、必要時スタッフの引継ぎノートや利用者介護記録へ転記、各利用者家族ごとなので意見の変化なども理解しやすくなった	家族の来訪時に感染症予防から利用者と事務所で会い、意向などは個別の家族ファイルに記録している。毎月送る通信のメッセージ欄に利用者の様子を知らせ、年に数回は写真を添付しているので今後は回数を増やしたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談や疑問点、希望要望を聞いたり引継ぎノートに記入されたことを、月1回のユニット会議でどうするか決定確認を行っている	感染症流行前は全体会議もあったが、現在はユニット会議で引継ぎノートも活用し、意見や提案について対応を決めている。職員の希望に応じて個別に面談することもある。職員は担当制をもち業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の力量の把握や研修を受ける機会の確保などに努めている 研修費の補助あり		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白石区内のグループホームで連絡を取り合っており、空き室状況を集計して一覧にしたものを毎月発行 管理者会議が定期的に実施されてきたが、コロナ渦以降は中止中		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Aユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会の機会を持ち、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や疑問などを傾聴、誠意を持って対応を行いはっきりとわかりやすい返答を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケアやサービスについて整理し関係者との連絡や相談をすることにより優先すべき支援を見極めることができている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの支援をお願いして協力してもらうなど、暮らしを共にする者同士という関係を築けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から利用者の様子などの報告や相談を行うように努めており利用者本人を支えていく関係作りを築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙のやり取り、家族や友人の訪問がある方や事務所の電話で取り次いだり、自身が持っている携帯電話でおしゃべりやメールを楽しんでいる方がいる 信仰する宗教の雑誌の差し入れが定期的にある	スタンプで年賀状を作り、家族や友人に送っている。友人の来訪や携帯電話で交流する方もいる。個別の外出支援で近くの寺や喫茶店に徒歩で行き、車いすや歩行器を使用し好きな果物や飲み物を買うなど馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な時には仲介に入るなど利用者同士が関わりを持って生活していくことができるように努めている 食事時などの声かけや自主歩行に誘い合う様子が見られている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Aユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退去後に必要なフォローを行ったり誠意を持って対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の好きなことや得意なことなどの把握のため、運営推進会議の事前アンケートを利用して家族へ協力をお願いした 本人の言った言葉を介護記録に記載し把握に努めている	家族アンケートのほか、会話や普段の関わりの中で情報を収集し介護記録に記載している。ほぼ会話が可能で意向を確認しながら個別に対応し、介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、居宅介護支援事業所や病院相談員などによる情報提供をお願いして把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、連絡ノート、会議などによりスタッフ間で情報交換と把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録をもとに利用者担当職員が記入した支援経過記録に沿って、介護計画作成をしている	計画の見直し時に担当職員が介護記録から目標に沿って要点を記録し、それをもとに計画作成担当者が詳細な評価表を作成している。会議で確認後、利用者や家族の意向を聞き取り介護計画を3か月ごと作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の実際に言っていた言葉を残すように努め、気づきや工夫などは申し送り、会議などで確認し情報共有しており、アセスメントに追加や介護計画見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対応できるよう誠意を持って行うよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容、病院外来リハビリ、札幌市オムツサービス利用がある豊かな生活づくりに役立つ地域資源がないか把握に努める		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診の他、状況に応じて職員対応で協力医療機関を受診、専門医を家族と受診するときは書面で本人の様子を伝える 受診記録を作成している	併設している協力医療機関の定期往診と通院が必要な時は職員が同行している。眼科や耳鼻科などの他科受診は家族が対応し書面で情報を渡している。受診内容は個別に記録し経過を把握している。	

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	沢口医院の看護師に普段から相談することができ適切な受診を受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診の付き添い時などに、利用者の様子や症状などの報告を行っており、病院関係者との関係づくりに役立っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針に沿って、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している 医師、家族、事業所で方針を話し合い、入院先や他の施設を紹介することを伝えている	利用開始時に事業所の対応方針を文書で説明し看取りは行っていないことも伝えて同意を得ている。状態の変化で医療的な行為が常時必要な場合は方針を話し合い、病院や施設を紹介し一緒に見学に行くなど安心できるように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法のファイルが各ユニットに用意してある 急変時の対応を会議などで報告することで、確認把握につながっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災と地震を想定した自主訓練を実施している	夜間想定火災と地震の避難訓練を事業所独自で行っている。地震など各災害時の個別対応について話し合い、定期的に見直しができるように記録をマニュアルに綴り共有している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや大きさ、表情なども気を付けて対応申し送りは事務所内で行い、プライバシーを確保している	年一回接遇研修を行い、適切な言葉かけを学んでいる。プライバシーに配慮し、申し送りは事務所で行い、また記録業務は居間の片隅に置いてある小机を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にわかりやすい問いかけや促しに気を付けながら自己決定できるよう働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースや希望を尊重できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、シャンプー、洋服など好みのものを用意してもらうなど支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者作成の献立を利用している 利用者の意向でメニュー変更をすることもある 食器拭きをお願いして職員と一緒にいることがある	本人の希望を聞き、個別にラーメンやソフトクリームを食べに出かけている。ケーキ屋に出かけたり、喫茶店でお茶を楽しむこともある。利用者と職員と一緒にサンドイッチやかぼちゃと餡子を使ったおやつ作りなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態はその方にあわせて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態にあわせて口腔ケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄状況を記録している 時間をみて声かけ誘導して清潔を保持したり、見守りのみの方もおりそれぞれに対する対応を考えている	退院した当初は、おむつを使っていたが体調の回復とともにリハビリパンツに変更できた利用者もいる。また夜間帯はおむつであったが、睡眠中の様子を観察することで、日中同様にリハビリパンツに戻したこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量の確認を行い、便秘が続くと時は主治医に相談することがある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が可能で、一人当たり週2回の入浴を支援している 1人では入れる方には本人に入りたい時間を確認するようにしている 浴後は本人好みの飲み物を用意している	拒む時は、曜日をずらし週2回は入浴できるようにしている。浴槽を跨ぐことが難しい場合は、シャワーを使っている。浴室内での介助を必要としない利用者もいるので見守りをしている。風呂上がりの飲み物も楽しみの一つになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子観察、都度対応を実施		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に必ず職員全員が目を通し、医師からの注意事項などもあわせて確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のやりたいこと欲しいものなど聞き取りをして対応している 利用者の携帯電話の使用支援や手紙の投函などしている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類に移行後、控えていた外出支援のため近所ではあるが、個別に行きたい所を聞き取りして出かける機会を作った	居室にて本人に出かけたい所を聞いている。スーパーマーケットへの買い物や寺、JR白石駅などへ個別外出している。徒歩圏内の地域を歩行器や車いすを使って移動している。駅構内から電車を眺めながら「どこへ行く汽車なんだろうね」と言葉を交わしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に財布を持っていたり、事務所で財布や通帳を預かり希望時に本人に渡すことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状、電話でのやり取りの支援を実施		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう環境づくりに努めている	事務所を挟んでAとBの2つのユニットが回廊式に配置されている。2つのユニットは共用空間内の扉で区切られており、職員の移動動線が確保されている。廊下、台所、食堂、洗面所は十分な広さがあり天井には豪華なシャンデリアが取り付けられている。窓側には洗濯物が干してあり冬季の湿度対策となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の小上がりや窓辺のソファで足を延ばしたりひなたぼっこをする様子がある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや冷蔵庫などの電化製品や筆筒、仏壇など馴染みのものを持ち込んでもらっている	自宅で使っていた馴染みのある筆筒や小型の仏壇、入居後に購入した冷蔵庫などが置かれている。その冷蔵庫には面会時に家族が持参した食品などを補充している。壁にはひ孫の写真や色紙が貼っており、本人らしい落ち着ける居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分が希望する生活が行えるように見守りを重視している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム生きがい2 Bユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6-12		
自己評価作成日	令和6年3月12日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503312-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがい2は、法人母体である整形外科内科沢口医院の3階にある。外来リハビリに定期的に通うことができるため、リハビリの継続ができたり体調不良などの時にすぐ病院に相談できるため利用者さんも安心して生活できる環境である。介護記録をもとに担当職員が支援経過記録に利用者の変化を転記してプラン評価につなげており、日々の記録を活かしながら介護計画の作成をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の研修で説明、常に職員が意識できるように事業所内の要所に掲示している 各職員が理念を念頭に置いて統一したケアが行えるようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のため施設内立ち入りを制限しており、以前行っていたフラダンスのボランティア、中学校の「でっち奉公」、定期的な音楽療法士による音楽の時間などは中止中 町内会で植えている花壇の手入れを行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	沢口医院に配布パンフレットを置いており急な見学希望などできる限り対応している、その際支援の方法や介護保険施設の説明など行う		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や利用者の状況、職員の入退職などを毎回報告している 当グループホーム内で発生したコロナ感染についての経過をまとめ、対応と反省点をお知らせした		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護課の方が利用者に面会に来たり、札幌市おむつサービスの利用について、介護保険更新についてなど電話で相談したりアドバイスをもらっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為について、施設内研修を実施、職員が理解して身体拘束のないケアを実施できるようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は具体的に高齢者虐待がどのようなものか理解して防止に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方はいないが、制度がどのようなものかスタッフが理解できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族、利用者に十分な説明を行ったうえで契約締結を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者家族ごとのファイルを作成し、電話や面会時のお話の内容など記録し、必要時スタッフの引継ぎノートや利用者介護記録へ転記、各利用者家族ごとなので意見の変化なども理解しやすくなった		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談や疑問点、希望要望を聞いたり引継ぎノートに記入されたことを、月1回のユニット会議でどうするか決定確認を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の力量の把握や研修を受ける機会の確保などに努めている 研修費の補助あり		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白石区内のグループホームで連絡を取り合っており、空き室状況を集計して一覧にしたものを毎月発行 管理者会議が定期的実施されてきたが、コロナ禍以降は中止中		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会の機会を持ち、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や疑問などを傾聴、誠意を持って対応を行いはっきりとわかりやすい返答を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケアやサービスについて整理し関係者との連絡や相談をすることにより優先すべき支援を見極めることができている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの支援をお願いして協力してもらうなど、暮らしを共にする者同士という関係を築けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から利用者の様子などの報告や相談を行うように努めており利用者本人を支えていく関係作りを築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙のやり取り、家族や友人の訪問がある方や事務所の電話で取り次いだり、自身が持っている携帯電話でおしゃべりやメールを楽しんでいる方がいる 信仰する宗教の雑誌の差し入れが定期的にある		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な時には仲介に入るなど利用者同士が関わりを持って生活していくことができるように努めている 食事時などの声かけや自主歩行に誘い合う様子が見られている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退去後に必要なフォローを行ったり誠意を持って対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の好きなことや得意なことなどの把握のため、運営推進会議の事前アンケートを利用して家族へ協力をお願いした 本人の言った言葉を介護記録に記載し把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、居宅介護支援事業所や病院相談員などによる情報提供をお願いして把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、連絡ノート、会議などによりスタッフ間で情報交換と把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録をもとに利用者担当職員が記入した支援経過記録に沿って、介護計画作成をしている 毎月発行のひだまり通信に記載お知らせすることで面会時にスムーズに家族から話を聞くことができる		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の実際に言っていた言葉を残すように努め、気づきや工夫などは申し送り、会議などで確認し情報共有しており、アセスメントに追加や介護計画見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対応できるよう誠意を持って行うよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容、病院外来リハビリ、札幌市オムツサービス利用がある豊かな生活づくりに役立つ地域資源がないか把握に努める		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診の他、状況に応じて職員対応で協力医療機関を受診、専門医を家族と受診するときには書面で本人の様子を伝える 受診記録を作成している		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	沢口医院の看護師に普段から相談することができ適切な受診を受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診の付き添い時などに、利用者の様子や症状などの報告を行っており、病院関係者との関係づくりに役立っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針に沿って、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している 医師、家族、事業所で方針を話し合い、入院先や他の施設を紹介することを伝えている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法のファイルが各ユニットに用意してある 急変時の対応を会議などで報告することで、確認把握につながっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災と地震を想定した自主訓練を実施している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや大きさ、表情なども気を付けて対応申し送りしは事務所内で行い、プライバシーを確保している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にわかりやすい問いかけや促しに気を付けながら自己決定できるよう働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースや希望を尊重できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、シャンプー、洋服など好みのものを用意してもらうなど支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者作成の献立を利用している 利用者の意向でメニュー変更をすることもある 食器拭きをお願いして職員と一緒に行うことがある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態はその方にあわせて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態にあわせて口腔ケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄状況を記録している 時間をみて声かけ誘導して清潔を保持したり、見守りのみの方もおりそれぞれに対する対応を考えている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量の確認を行い、便秘が続くと時は主治医に相談することがある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が可能で、一人当たり週2回の入浴を支援している 1人では入れる方には本人に入りたい時間を確認するようにしている 浴後は本人好みの飲み物を用意している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子観察、都度対応を実施		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に必ず職員全員が目を通し、医師からの注意事項などもあわせて確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のやりたいこと欲しいものなど聞き取りをして対応している 利用者の携帯電話の使用支援や手紙の投函などしている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類に移行後、控えていた外出支援のため近所ではあるが、個別に行きたい所を聞き取りして出かける機会を作った		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に財布を持っていたり、事務所で財布や通帳を預かり希望時に本人に渡すことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状、電話でのやり取りの支援を実施		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう環境づくりに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の小上がりや窓辺のソファで足を延ばしたりひなたぼっこをする様子がある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや冷蔵庫などの電化製品や筆筒、仏壇など馴染みのものを持ち込んでもらっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分が希望する生活が行えるように見守りを重視している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム生きがい2

作成日：令和 6年 3月 26日

市町村受理日：令和 6年 3月 28日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	身体拘束適正委員会記録に身体拘束の有無の確認 以外の内容が不足している	委員会で確認した内容などが記入された誰が見ても わかる会議録にする	・利用者にとって虐待や身体拘束に該当する可能性 がある介護がなかったか話し合い会議録に載せる ・身体拘束適正化のため実施した研修記録を委員会 のファイルに綴る	1年
2	10	運営に反映させるため、利用者の家族などが 意見要望を職員に表せる機会づくりを増やす	利用者の家族などが利用者の施設での普段 の生活について知る機会を作る	・毎月送る通信のメッセージ欄に利用者の様子を 知らせる事続ける ・個別の写真添付を、年4回実施する	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。